

《沖縄協同病院の理念》

- 人権といのちの尊厳を守る、無差別平等の医療を行います。
- 地域と共に平和で健康に暮らせる、まちづくりを行います。



《沖縄協同病院医師研修理念》

- 基本的診療能力を身につけることを第一の目標とし、患者を「一人の人間」として捉え、「患者の幸せ」を追求できる医師を養成します。

第 3 回

沖協ICLSコース10/18 無事終わりました



今回は2024年と異なり参加者を沖縄医療生活協同組合全体から募集させていただきました。結果とよみ生協病院から3人、中部協同病院から1人、沖協から8人参加となりました。参加を希望されながらお断りしなければならなかった皆様には本当に申し訳ありませんでした

が、次の機会にぜひまた御応募ください。
25年ものしくワクワクしながら蘇生対応を学んでいただけたと考えています。インストラクターだけでなく参加者の笑顔もたくさん見ました。それでいて急変時、何を行えばよいか十分に学んでいただけたと思っています。
私もまた勉強させていただきました。参加者アンケートでは「質問など行いやすいコースとなっていましたか?」の質問に100% (8人回答時点) Yes! のお答えあり「緊張しすぎずできる (コース学習の) 進め方でよかったです」という感想もいただきました。
今回もインストラクターの活躍はもちろん事務局をはじめ多くの皆様の御協力をいただきました。有難うございました。
ICLSインストのみんなは分かっています。急変時、何を行うべきかわかっているスタッフと蘇生対応にあたると、対応がスムーズに進行することを。そうなのです。私も急変時病棟のスタッフが除細動器を側で立ち上げて下さり、リード線を付けてⅡ誘導で感度1倍にしてエコー器まで急変現場に準備している状態が整っていると「良く学習され急変対応どう動くべきか熟知されていますね〜」と感心させられています。
急変は無いにこしたことはありませんが、いざ事が起こった時に素早く初期ICLS: Immediate Cardiac Life Support対応が出来るスタッフを各階で育ていけるお手伝いを今後も頑張りますのでよろしくお願いいたします。

救急集中治療科 佐久田 豊

インフルエンザウイルス ワクチンの重要性

ワクチンとは、病気を引き起こすウイルスや細菌に対して、体の中に「抗体」という防御力を獲得するためのものです。ワクチンで感染そのものを防ぐことはできませんが、抗体を獲得しておくことで、発症や重症化予防への効果が期待できます。インフルエンザワクチンは接種してから抗体を獲得するまでに、2週間程かかります。そのため、流行前にワクチンを接種し、備える事が大切です。
また、年によって流行株が変化するため、ワクチンは毎年打つことが大切です。インフルエンザは症状がではじめてから、多くの場合は1週間程度で自然に回復しますが、高齢者や基礎疾患がある方は、重症化することもあり、注意が必要です。ワクチン接種に加えて、手指衛生やマスク着用など基本的な感染対策を実施して、インフルエンザを予防していきましょう。

感染管理認定看護師 松本 幸作

病院の 活動状況 <2025年9月度>

- ・ 外来一日平均患者数：234人 (前年同月比 -63人)
- ・ 入院一日平均患者数：258人 (前年同月比 +9人)
- ・ 組合員利用分量(率)：64.9% (前年同月比 +13.3%)



がん検診は大切です

225 腫瘍内科より

国が推奨するがん検診の一覧

種類	検査項目	対象年齢	受診間隔
胃がん	問診に加え、胃部エックス線検査又は胃内視鏡検査のいずれか	50歳以上 ※自分の間、胃部エックス線検査については40歳以上に 対し実施可	2年に1回 ※自分の間、胃部エックス線検査については 年1回実施可
子宮頸がん	問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診	20歳代	2年に1回
	問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診	30歳以上 ※市区町村で実施する検診項目を ご確認ください。	2年に1回
	問診、視診及びHPV検査単独法		5年に1回 ※罹患リスクが高い者 については1年後に受診
肺がん	質問 (問診)、胸部エックス線検査及び喀痰細胞診	40歳以上 ※喀痰細胞診については原則 として50歳以上の重喫煙者 (喫煙指数600以上の者)のみ	年1回
乳がん	質問 (問診) 及び乳房エックス線検査 (マンモグラフィ)	40歳以上 ※視診、触診は推奨しない	2年に1回
大腸がん	問診及び便潜血検査	40歳以上	年1回

出所:厚生労働省「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針 (令和3年10月1日一部改正)」より

突然ですが、皆さんは「健診」と「検診」の違いについて知っていますか?
読み方はどちらも同じ「けんしん」なのですが、両者には違いがあります。
「健診」は「健康診断」の略称で、企業が従業員に受けさせるよう法的に義務付けられており、主な目的は生活習慣病の予防や早期発見です。それに対して「検診」はがんなど特定の疾患を早期発見することが目的であり、費用の負担はあるものの、多くの項目の検査を自分の意思で受けることが可能です (人間ドックは「検診」に含まれます)。
ご存じの通り、現在日本人の2人に1人ががんになり、4人に1人ががんでお亡くなりになるといわれており、がんは日本人の死亡原因第1位でもあります。
進行してしまったがんを完全に克服することは難しいため、早期発見することがなによりも大切です。
「自分は毎年健診を受けているから大丈夫」と定期的に通院しているからといって安心から「検診」と考えている方もいらっしゃるかもしれませんが、通常それらの方法だけで早期のがんを発見することは難しいため、積極的にがん検診を受けていただきたいです。

腫瘍内科 安次嶺 宏哉

つながりづくり強化月間

10月1日～11月30日の2か月間は医療生協つながりづくり強化月間です。沖縄協同病院は生協法に則って病院を運営しており、医療生活協同組合に加入している方の病院利用が大前提です。また、未加入で受診されても医療生活協同組合の活動を理解して組合員に加入していただければ幸いです。すでに組合員の方には増資を呼びかけております。皆様の加入と増資は当院の医療活動の大事な支えとなります。

多くの組合員さんの出資により「いつでも、だれもが、安心して良い医療が受けられる」病院を運営していきたいと思っておりますのでご協力よろしくお願いいたします。

組合員は割引にて利用できる店舗などの紹介もありますので、お申し込みは沖縄協同病院の1階生協コーナーや職員に声をおかけください。

事務次長 渡嘉敷 博和

帰任あいさつ



救急科
ち ぢ わ か れ ん
千々和 可憐

当院で初期研修を終え、3年半の救急科専門医研修を主に広島で行い、10月に沖縄協同病院に救急医として戻ってきました。帰任してまだそこまで時間は経っていませんが、それでも沖縄協同病院の救急科に来られる患者さんの幅広さに圧倒される毎日です。

ここ最近は高齢社会の影響で日本国内全体的に救急車搬送数が多いですが、沖縄は特に貧困等の社会問題も多い影響もあるのか、救急外来に求められる役割が医療以外にも多様化しているように感じます。救急医として日々の診療の質を担保することはもちろんのこと、それだけでは患者さんの生活まではサポートできないことも多いです。したがって、社会背景まで鑑みて何か介入をできることを探しつつ、患者さんの幸せを追求していくような救急外来にできたら良いと画策しています。もちろん、スタッフの幸せも追求できるような救急医も目指しています！今後ともよろしくお願いいたします。



当院で出生したBabyの写真です



八幡丞ちゃん



平良虹華ちゃん

Instagramやってます
@okikyo.sanka



私の部署のいいところ

リエゾンセンターは、精神科医師、看護師、臨床心理士・公認心理師、精神保健福祉士の多職種チームで活動しています。

『リエゾン』とはフランス語で、『連結、橋渡し、連携』を意味します。

私たちは全病棟を対象に、主に入院中の患者さんに生じる精神的な困りごと(眠れない、気分が落ち込む、病気や薬など何らかの理由で一時的に意識障害や認知機能の低下などが生じるせん妄)などに対し、主治医や病棟スタッフと連携して対応しています。

私たちリエゾンセンターは患者さん一人ひとりのところに寄り添い、安心して治療に専念できる環境づくりを、これからも大切にしていまいります。

臨床心理士・公認心理師 田本 裕美

リエゾンセンター



委員会活動報告

42.職場リスクマネージャー委員会



職場リスクマネージャー委員会では、月1回各部署のリスクマネージャーが約20人ほど集まります。

リスクマネージャーは、患者さんが安心して医療を受けられるよう患者と部署の安全を守る役割をしています。

毎月、それぞれの部署であったことを共有し、安全の視点を大切にして話し合いをしています。患者さんに安心・安全な医療を提供できるよう頑張っていきたいと思っています。

事務局長(医療安全) 町田 智香



ハルサー だより®

バナナ

バナナという植物に会ったのは20数年前の南部農林高校の農業祭。この植物のどこからバナナアイスのような甘い香りがするのだろうかと思いついた。それで1鉢買って家の裏に置いていた。ほったらかしの状態だったが数年後に見たら家の壁を伝って四方八方に3m以上伸びている。よく見ると蘭の花そっくりな薄緑の花が咲いている。数少ないネット情報から20個程授粉を試みたが全滅。それでもどうしてもバナナビーンズを収穫したいので30個程挿芽をして増やしていた。最近にわかに周囲がバナナブームになっているのでそれを機に栽培(写真)を開始した。

バナナはおしべとめしべの間に仕切りがあって受粉しにくい構造になっているという。原産地(中央アメリカ)では固有のハチが受粉するが他の国では人工授粉ができないので長い間結実させることはできなかった。しかし、1841年にインド洋に浮かぶ島の12歳の少年が人工授粉方法を発見してからバナナ栽培は大きく発展した。バナナは苗から開花まで3年以上かかり、複雑な人工授粉に成功しても結果から収穫までは8カ月以上かかる。さらに収穫してバナナの香りを出すまでには発酵、乾燥、熟成という6カ月以上の工程を経なければならぬ。そのためバナナはサフランに次ぐ高級スパイスになっている。

バナナに含まれる「バニリン」という成分は「母乳」にも含まれているという。アイスクリーム好きの約30%がバナナを選ぶというが、人間がバナナの香りを好むのは本能的なものかも。

バナナの香りは長く記憶に残ることから花言葉は「永久不滅」。先月、初の女性首相が誕生した。母性は子ども達の命を守るもの。「平和の永久不滅」を最優先に願うばかりだ。

ハルサー 金城 稲子